

2023 年 度

シ ラ バ ス

理学療法学科 II 部 3年

学校法人 福田学園

大阪リハビリテーション専門学校

OSAKA COLLEGE OF REHABILITATION

授業科目	理学療法管理学			担当者	越智 久雄 他	
学科名	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	医療保険制度と介護保険制度を学習し、社会人として必要となる知識を修得する。					
到達目標	医療従事者に求められる倫理観を理解する。施設と人的資源の管理を理解する。					
授業計画						
第1回 職業倫理 理学療法士の倫理と人間関係						
第2回 関係法規 秘守義務について						
第3回 医療施設における理学療法と職場運営						
第4回 施設基準・病院機能評価について						
第5回 医療施設における理学療法と職場運営 1						
第6回 医療施設における理学療法と職場運営 2						
第7回 管理・運営の実際 最近の医療制度の中で 1						
第8回 管理・運営の実際 最近の医療制度の中で 2						
第9回 介護保険制度における理学療法士の課題と役割 1						
第10回 介護保険制度における理学療法士の課題と役割 2						
第11回 介護保険制度における理学療法士の課題と役割 3						
第12回 介護保険制度における理学療法士の課題と役割 4						
第13回 管理・運営の実際 最近の医療制度の中で 3						
第14回 管理・運営の実際 最近の医療制度の中で 4						
第15回 管理・運営の実際 最近の医療制度の中で 5						
評価方法						
平常点100% 日常的な講義に対する取り組みにより評価を行います。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
復習:学んだことは確実に復習し、臨床で活かせる知識としておくこと。						
授業時間外の質問について						
本科目は、多数の外来講師によるオムニバス構成です。質問事項は授業直後の担当講師、または3年生担任、副担任にお願いします。						
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	臨床ゼミナールⅢ			担当者	3年生担任 他	
学科名	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	2単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	<p>(前期)長期臨床実習に挑む能力を確認、補充する。臨床実習Ⅰで学び経験した症例を取り上げ検討会を実施。必要な点を再確認する。 (後期)長期臨床実習で経験した症例についてまとめ、症例研究(シングルケーススタディ)を行う。加え理学療法プロセスの習得について検証を行う。</p>					
到達目標	<p>①理学療法に関わる必要な知識、技術、思考を再習得する。 ②臨床実習等に関わる経験より、症例研究報告を行う能力をつける。</p>					
授業計画 第1回 技術、知識、思考能力の確認と補充。(症例経験報告を含む) 第2回 技術、知識、思考能力の確認と補充。(症例経験報告を含む) 第3回 技術、知識、思考能力の確認と補充。(症例経験報告を含む) 第4回 技術、知識、思考能力の確認と補充。(症例経験報告を含む) 第5回 技術、知識、思考能力の確認と補充。(症例経験報告を含む) 第6回 技術、知識、思考能力の確認と補充。(症例経験報告を含む) 第7回 技術、知識、思考能力の確認と補充。自己課題の整理、まとめ。 第8回 症例研究 第9回 症例研究 第10回 症例研究 第11回 症例研究 第12回 症例研究 第13回 症例研究発表 第14回 症例研究発表 第15回 症例研究発表 まとめ						
評価方法 前期50%:知識、技術、思考の整理(授業参加態度、課題提出)。 後期50%:実習経験症例研究(発表内容と出席)。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について 継続した学習行動が必要。計画性をもって時間外にも他者とのコミュニケーションを大切にしてください。						
授業時間外の質問について 本科目は3年生担任が主になり進行します。随時口頭で質問してください。						

授業科目	臨床ゼミナールⅢ			担当者	3年生担任 他	
学科名	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	2単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	<p>(前期)長期臨床実習に挑む能力を確認、補充する。臨床実習Ⅰで学び経験した症例を取り上げ検討会を実施。必要な点を再確認する。</p> <p>(後期)長期臨床実習で経験した症例についてまとめ、症例研究(シングルケーススタディ)を行う。加え理学療法プロセスの習得について検証を行う。</p>					
到達目標	<p>①理学療法に関わる必要な知識、技術、思考を再習得する。</p> <p>②臨床実習等で関わる経験より、症例研究報告を行う能力をつける。</p>					
教科書						
書名						
著者名						
出版社						
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						
留意事項						
<p>課題の提出物、発表用レジュメ等も生じます。授業の参加に加え、案内既定に従い対応をしてください。</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する場合があります。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。</p>						

授業科目	国試対策ゼミナール			担当者	理学療法学科教員 他	
学科名	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	4単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	理学療法士国家試験に必要な知識と思考を習得するために、国家試験対策集中講義を行う。 またグループ学習と個人学習を併用して実施します。学習成果を確認するために、国家試験の過去問演習等を実施し、その結果を分析して学習方法や学習内容を指導します。 (必要に応じて教室、実習室以外での遠隔授業運営をすることがある。)					
到達目標	理学療法士国家試験合格に到達できる知識と思考を習得すること。					
授業計画						
第1回	国家試験対策	集中講義	(1)			
第2回	国家試験対策	集中講義	(2)			
第3回	国家試験対策	集中講義	(3)			
第4回	国家試験対策	集中講義	(4)			
第5回	国家試験対策	集中講義	(5)			
第6回	国家試験対策	集中講義	(6)			
第7回	国家試験対策	集中講義	(7)			
第8回	国家試験対策	集中講義	(8)			
第9回	国家試験対策	集中講義	(9)			
第10回	国家試験対策	集中講義	(10)			
第11回	国家試験対策	集中講義	(11)			
第12回	国家試験対策	集中講義	(12)			
第13回	国家試験対策	集中講義	(13)			
第14回	国家試験対策	集中講義	(14)			
第15回	国家試験対策	集中講義	(15)			
第16回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第17回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第18回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第19回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第20回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第21回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第22回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第23回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第24回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第25回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第26回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第27回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第28回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第29回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第30回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第31回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第32回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第33回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				
第34回	国家試験対策	グループ学習・個人学習				

授業科目	国試対策ゼミナール			担当者	理学療法学科教員 他	
学科名	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	4単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	理学療法士国家試験に必要な知識と思考を習得するために、国家試験対策集中講義を行う。 またグループ学習と個人学習を併用して実施します。学習成果を確認するために、国家試験の過去問演習等を実施し、その結果を分析して学習方法や学習内容を指導します。 (必要に応じて教室、実習室以外での遠隔授業運営をすることがある。)					
到達目標	理学療法士国家試験合格に到達できる知識と思考を習得すること。					
第35回	国家試験対策 グループ学習・個人学習					
第36回	国家試験対策 グループ学習・個人学習					
第37回	国家試験対策 グループ学習・個人学習					
第38回	国家試験対策 グループ学習・個人学習					
第39回	国家試験対策 グループ学習・個人学習					
第40回	国家試験対策 グループ学習・個人学習					
第41回	国家試験対策 グループ学習・個人学習					
第42回	国家試験対策 グループ学習・個人学習					
第43回	国家試験対策 グループ学習・個人学習					
第44回	国家試験対策 グループ学習・個人学習					
第45回	国家試験対策 グループ学習・個人学習					
第46回	国家試験 過去問演習(1)					
第47回	国家試験 過去問演習(2)					
第48回	国家試験 過去問演習(3)					
第49回	国家試験 過去問演習(4)					
第50回	国家試験 過去問演習(5)					
第51回	国家試験 過去問演習(6)					
第52回	国家試験 過去問演習(7)					
第53回	国家試験 過去問演習(8)					
第54回	国家試験 過去問演習(9)					
第55回	国家試験 過去問演習(10)					
第56回	国家試験 過去問演習(11)					
第57回	国家試験 過去問演習(12)					
第58回	国家試験 過去問演習(13)					
第59回	国家試験 過去問演習(14)					
第60回	国家試験 過去問演習(15)					
評価方法	定期的に国家試験の出題形式に沿った過去問演習問題を実施し、その成績で判断する。					
授業時間外の学習(予習・復習等)について	国家試験で求められる広範囲の知識を確実に積み上げていく必要があるため、グループ学習で明らかとなる自己の課題、不足している知識を補うための自己学習が必須となります。必要な知識の整理、理解、記憶保持を継続して努める必要があります。					

授業科目	国試対策ゼミナール			担当者	理学療法学科教員 他	
学科名	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	4単位	
		開講時期	通年	選択・必修	必修	
内 容	理学療法士国家試験に必要な知識と思考を習得するために、国家試験対策集中講義を行う。 またグループ学習と個人学習を併用して実施します。学習成果を確認するために、国家試験の過去問演習等を実施し、その結果を分析して学習方法や学習内容を指導します。 (必要に応じて教室、実習室以外での遠隔授業運営をすることがある。)					
到達目標	理学療法士国家試験合格に到達できる知識と思考を習得すること。					
授業時間外の質問について						
本科目は3年生担任が統括します。学習状況の確認や相談は適宜、担任を中心に行います。						
教科書						
	書名	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント				
	著者名	基礎医学・基礎PT学・臨床医学・障害別PT治療学				
	出版社	医歯薬出版				
	書名	国家試験対策コンテンツ				
	著者名					
	出版社	全国リハビリテーション教育協会				
参考図書						
	書名					
	著者名					
	出版社					
留意事項						
1年間、毎日継続して学習を行う必要がある為、学習計画に基づいた行動が必要です。						
本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。						

授業科目	国試対策特論			担当者	理学療法学科教員 他	
学科名	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	<p>理学療法士国家試験に必要な知識と思考を習得するために、国家試験対策集中講義を行う。</p> <p>またグループ学習と個人学習を併用して実施します。</p> <p>学習成果を確認するために、国家試験模擬試験等を実施し、その結果を分析して学習方法や学習内容を指導します。</p> <p>(必要に応じて教室、実習室以外での遠隔授業運営をすることがある。)</p>					
到達目標	理学療法士国家試験合格に到達できる知識と思考を習得すること。					
授業計画						
第1回 国家試験対策 集中講義(1)						
第2回 国家試験対策 集中講義(2)						
第3回 国家試験対策 集中講義(3)						
第4回 国家試験対策 集中講義(4)						
第5回 国家試験対策 集中講義(5)						
第6回 国家試験対策 集中講義(6)						
第7回 国家試験対策 集中講義(7)						
第8回 国家試験対策 集中講義(8)						
第9回 国家試験対策 集中講義(9)						
第10回 国家試験対策 集中講義(10)						
第11回 国家試験対策 集中講義(11)						
第12回 国家試験対策 集中講義(12)						
第13回 国家試験対策 集中講義(13)						
第14回 国家試験対策 集中講義(14)						
第15回 国家試験対策 集中講義(15)						
評価方法						
【卒業試験実施日】						
第1回目：2024年 1月22日（月曜）、第2回目：2024年 1月24日（水曜）						
【合格判定基準】						
・国家試験と同様の採点方法で280点満点中150点以上を合格点とする。2回実施する試験をいずれもクリアした者を「合格」とする。（*第1回目不合格の場合は、第2回目の受験は出来ません。）						
【不合格の場合】						
・卒業試験が不合格の場合、2024年 1月31日（水曜）に「卒業試験再試験」を実施する。再試験の判定基準は卒業試験（第1回目、第2回目）と同様とする。再試験が不合格の場合は、該当科目が単位未修得となり、卒業は認定されない為、今年度の国家試験の受験資格は与えない。						
集中講義では、国家試験に頻出の内容を取り上げて解説を行い、学習の要点を指導します。指導に沿って必ず予習復習を自己学習として行って下さい。						
授業時間外の質問について						
質問は直接対面にて授業前後に各担当者が行います。						
教科書						
書名	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント					
著者名	基礎医学・基礎PT学・臨床医学・障害別PT治療学					
出版社	医歯薬出版					
参考図書						
書名						
著者名						
出版社						

授業科目	国試対策特論			担当者	理学療法学科教員 他	
学科名	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	<p>理学療法士国家試験に必要な知識と思考を習得するために、国家試験対策集中講義を行う。</p> <p>またグループ学習と個人学習を併用して実施します。</p> <p>学習成果を確認するために、国家試験模擬試験等を実施し、その結果を分析して学習方法や学習内容を指導します。</p> <p>(必要に応じて教室、実習室以外での遠隔授業運営をすることがある。)</p>					
到達目標	理学療法士国家試験合格に到達できる知識と思考を習得すること。					
留意事項	<p>1年間、毎日継続して学習を行う必要がある為、学習計画に基づいた行動が必要です。</p> <p>本授業は、対面での実施を基本とするが、必要に応じて多様なメディアを高度に利用し、教室等以外の場所で授業運営をすることがある。(遠隔授業)授業の実施方法(対面・遠隔)について、変更があった場合は講義支援システム(Moodle)を通じて周知する。また、試験期間中に一斉休講が生じた場合、「定期試験(筆記試験/期末試験)」による評価方法を「レポート試験」「小テスト」「WEB試験」等に変更する可能性がある。評価方法の変更については、各科目担当者より、別途通知する。</p>					

授業科目	臨床実習 I	担当者	臨床実習指導者・専任教員			□実務教員
学科名	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	3単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	臨床実習とは授業の一環であり教育の一環である。臨床の場で実際に対象者や指導者と関わり、その関係性の中で学習する。					
到達目標	1) 対象者に興味を持つこと。 2) 理学療法に興味を持つこと。 3) 関わりを通して学習する経験をする事。 4) 理学療法過程の経験から理学療法士像を形成すること。 この4項目の到達を目標。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が指導にあたり、最新の知見を基に知識、技術、態度について臨床家としての能力を高める。					
授業計画						
(実習時間) 135時間						
(実習方法) 臨床実習指導者(以下SVと略す)の援助の下、対象者と関わり、理学療法過程の一部分(評価から治療までの範囲で)を一つでも多くを経験させていただく。その経験から対象者の障害、および理学療法についての理解を深め学習を積み重ねる。 地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションもしくは訪問リハビリテーションの役割やリハビリテーションマネジメント等に関する実習体験が可能な施設においては実習時間の1単位以上を経験させていただく。						
評価方法						
実習行動評価内容(50%)、学内症例報告内容(50%)をもって合否判定する。必要な出席日数については、全行程日数の4/5以上が単位習得上に必須となる。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について						
日々自己課題、自己学習行動を明確にするための報告、相談を行い進行すること。 (担当教員、SVとの密な連携)						
授業時間外の質問について						
実習時間内の質問は直接実習指導者との連携を図ること。実習時間外に生じた質問は学校教員に電話連絡。もしくは実習担当教員、または3年生担任、副担任への教員アドレスメールに発信してください。						
教科書						
書名 _____						
著者名 _____						
出版社 _____						
参考図書						
書名 _____						
著者名 _____						
出版社 _____						
留意事項						
臨床実習中はもちろん、実習前の準備、実習終了後の整理を行う取り組みが臨床実習内容に大きく影響します。限られる学習時間を大切にすること。施設指導者、学内教員との連携を図ること。(報告・相談)						
臨床実習については、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う臨地での実習中止などにより、学内実習(対面・遠隔を含む)に変更する可能性がある。変更の場合は、講義支援システム(Moodle)などを通じて周知する。						

授業科目	臨床実習Ⅱ(医療施設外)		担当者	臨床実習指導者・専任教員		□実務教員
学科名	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	臨床実習とは授業の一環であり教育の一環である。臨床の場で実際に対象者や指導者と関わり、その関係性の中で学習する。					
到達目標	1) 対象者に興味を持つこと。 2) 理学療法に興味を持つこと。 3) 関わりを通して学習する経験をする事。 4) 理学療法過程の経験から理学療法士像を形成すること。 この4項目の到達を目標。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が指導にあたり、最新の知見を基に知識、技術、態度について臨床家としての能力を高める。					
授業計画 (実習時間) 90時間 (実習方法) 医療および介護保険制度も時々刻々と変化を遂げており、理学療法に対するニーズも多様化している。このような中で医療施設以外での現場を経験し、各々の現場での役割や求められる能力を知り、経験学習を積む。理学療法士像が形成、再認識できるよう学習を反復する。 地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションもしくは訪問リハビリテーションの役割やリハビリテーションマネジメント等に関する実習体験が可能な施設においては実習時間の1単位以上を経験させていただく。						
評価方法 実習行動評価内容(50%)、学内症例報告内容(50%)をもって合否判定する。必要な出席日数については、全行程日数の4/5以上が単位習得上に必須となる。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について 日々自己課題、自己学習行動を明確にするための報告、相談を行い進行すること。 (担当教員、SVとの密な連携)						
授業時間外の質問について 実習時間内の質問は直接実習指導者との連携を図ること。実習時間外に生じた質問は学校教員に電話連絡。もしくは実習担当教員、または3年生担任、副担任への教員アドレスメールに発信してください。						
教科書 書名 著者名 出版社						
参考図書 書名 著者名 出版社						
留意事項 臨床実習中はもちろん、実習前の準備、実習終了後の整理を行う取り組みが臨床実習内容に大きく影響します。限られる学習時間を大切にすること。施設指導者、学内教員との連携を図ること。(報告・相談) 臨床実習については、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う臨地での実習中止などにより、学内実習(対面・遠隔を含む)に変更する可能性がある。変更の場合は、講義支援システム(Moodle)などを通じて周知する。						

授業科目	臨床実習Ⅲ	担当者	臨床実習指導者・専任教員			□実務教員
学科名	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	8単位	
		開講時期	前期	選択・必修	必修	
内 容	臨床実習とは授業の一環であり教育の一環である。臨床の場で実際に対象者や指導者と関わり、その関係性の中で学習する。					
到達目標	1) 対象者に興味を持つこと。 2) 理学療法に興味を持つこと。 3) 関わりを通して学習する経験をする事。 4) 理学療法過程の経験から理学療法士像を形成すること。 この4項目の到達を目標。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が指導にあたり、最新の知見を基に知識、技術、態度について臨床家としての能力を高める。					
授業計画 (実習時間) 360時間						
(実習方法) 臨床実習指導者(以下SVと略す)の援助の下、理学療法を通し数週間に渡り対象者と向き合う経験をさせて頂く。学生は必要に応じてSVの援助を受け、理学療法を通した対象者との関係性の中で臨床実習を進める。その経験の中で試行錯誤を繰り返し、対象者の障害を理解しようと継続的な関心と、興味に動機付けられた経験学習を反復する。 地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションもしくは訪問リハビリテーションの役割やリハビリテーションマネジメント等に関する実習体験が可能な施設においては実習時間の1単位以上を経験させていただく。						
評価方法 実習行動評価内容(50%)、学内症例報告内容(50%)をもって合否判定する。必要な出席日数については、全行程日数の4/5以上が単位習得上に必須となる。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について 日々自己課題、自己学習行動を明確にするための報告、相談を行い進行すること。 (担当教員、SVとの密な連携)						
授業時間外の質問について 実習時間内の質問は直接実習指導者との連携を図ること。実習時間外に生じた質問は学校教員に電話連絡。もしくは実習担当教員、または3年生担任、副担任への教員アドレスメールに発信してください。						
教科書 書名 著者名 出版社						
参考図書 書名 著者名 出版社						
留意事項 臨床実習中はもちろん、実習前の準備、実習終了後の整理を行う取り組みが臨床実習内容に大きく影響します。限られる学習時間を大切にすること。施設指導者、学内教員との連携を図ること。(報告・相談) 臨床実習については、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う臨地での実習中止などにより、学内実習(対面・遠隔を含む)に変更する可能性がある。変更の場合は、講義支援システム(Moodle)などを通じて周知する。						

授業科目	臨床実習Ⅳ	担当者	臨床実習指導者・専任教員			□実務教員
学科名	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	8単位	
		開講時期	後期	選択・必修	必修	
内 容	臨床実習とは授業の一環であり教育の一環である。臨床の場で実際に対象者や指導者と関わり、その関係性の中で学習する。					
到達目標	1) 対象者に興味を持つこと。 2) 理学療法に興味を持つこと。 3) 関わりを通して学習する経験をする事。 4) 理学療法過程の経験から理学療法士像を形成すること。 この4項目の到達を目標。					
実務教員による授業	臨床経験豊富なエキスパートの講師が指導にあたり、最新の知見を基に知識、技術、態度について臨床家としての能力を高める。					
授業計画 (実習時間) 360時間 (実習方法) 臨床実習指導者(以下SVと略す)の援助の下、理学療法を通し数週間に渡り対象者と向き合う経験をさせて頂く。学生は必要に応じてSVの援助を受け、理学療法を通した対象者との関係性の中で臨床実習を進める。その経験の中で試行錯誤を繰り返し、対象者の障害を理解しようと継続的な関心と、興味に動機付けられた経験学習を反復する。 地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションもしくは訪問リハビリテーションの役割やリハビリテーションマネジメント等に関する実習体験が可能な施設においては実習時間の1単位以上を経験させていただく。						
評価方法 実習行動評価内容(50%)、学内症例報告内容(50%)をもって合否判定する。必要な出席日数については、全行程日数の4/5以上が単位習得上に必須となる。						
授業時間外の学習(予習・復習等)について 日々自己課題、自己学習行動を明確にするための報告、相談を行い進行すること。(担当教員、SVとの密な連携)						
授業時間外の質問について 実習時間内の質問は直接実習指導者との連携を図ること。実習時間外に生じた質問は学校教員に電話連絡。もしくは実習担当教員、または3年生担任、副担任への教員アドレスメールに発信してください。						
教科書 書名 著者名 出版社						
参考図書 書名 著者名 出版社						
留意事項 実習中はもちろん、実習前の準備、実習終了後の整理を行う取り組みが臨床実習内容に大きく影響します。限られる学習時間を大切にすること。施設指導者、学内教員との連携を図ること。(報告・相談) 臨床実習については、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う臨地での実習中止などにより、学内実習(対面・遠隔を含む)に変更する可能性がある。変更の場合は、講義支援システム(Moodle)などを通じて周知する。						